

<vol.160の記事>

- 活動紹介 サッカー、シニアヨガ、ノルディックウォーク！
- 浦スポ23年間の謎 その1 レッズと分離してつづれなかった理由



5歳から80代までいるクラブ

■サッカー広場 年中からスーパーシニアまで



月曜と木曜日の3時から開催されているサッカー広場。年中さんは、みんなより1月遅れて5月から開始です。

今年は年中の出足好調！ 人数もですが、元気な子が多い！初日からみんな走り回って、球蹴って・・・ほんとに浦和の子達はサッカーが好きですね^^



サッカーが好きなのは、子どもばかりではありません！

同じく木曜日午後1時～3時開催のスーパーシニア（60歳以上）も負けず劣らずサッカー好き！ いくつになっても続けられる、続けたい！ 元気にボールをおいかけるその姿は、生涯スポーツの生きた見本！



平均年齢では、年中広場とスーパーシニアのちょうど間くらいに位置する、生涯コース。写真は、駒場サブで行われた市民リーグ5部の試合前。今年度は、ユースからも3名が参加。かなり活躍してくれています！^^！

例年シーズン始めはかみあわす●先行になることが多いのですが、今年は若手とおっさんがうまく融合し、3戦3勝。残り4戦・・・頑張って勝ち続けたいですね！

■シニア向けプログラムは他にもいろいろ！



こちらは、水曜日に領家スタジオで開催されているシニアヨガクラスの皆さんです。インストラクターの金木さんの指導のもと、シニアでも無理のないゆっくりとゆったりとしたヨガを楽しまれています。

浦スポのスタジオプログラムは、個人個人の体力や年齢にあわせて、運動強度の高いものから優しいものまで選べるように、様々なプログラムがあります。お友達にも安心してご紹介してください。

右は、ノルディックウォークの皆さん。

5/22は、川越七福神めぐりに行ってきました。

七福神めぐりと蔵造り、菓子屋横丁などを堪能しました。



子どものスポーツ支援プロジェクト4月分は、83,500円でした。ご協力ありがとうございました。

浦スポの謎 その1

クラブが設立してから23年間、その間には、何度か運営の危機や大きな節目がありました。

クラブの講習会などで事例報告をすると、「23年間続いたのはなぜですか？ 人数が増えたのはなぜですか？」そんな質問をしばしばいただきます。

■レッズと分離して3年で経営難に！

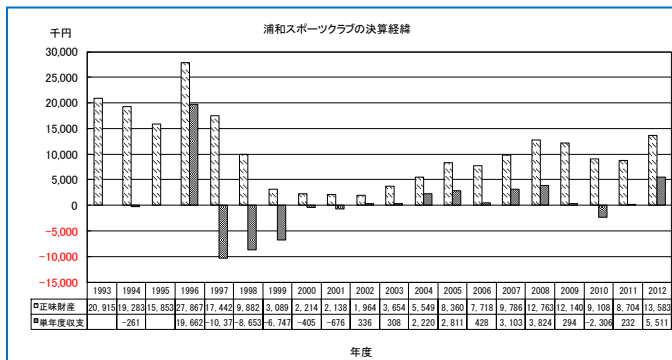
浦スポ設立準備期間中に、三菱が浦和でJリーグに参加することとなりました。リーグ参加の条件の一つに、ホームタウンに育成部門を有していることがあります。そこで、設立準備を進めていた浦スポのユース、ジュニアユースを浦和レッズの下部組織として共同運営していくことがまりました。

約5年ほどこの形態で運営を続け、1995年度には、高円宮杯で全国優勝を果たすほどになりましたが、これを機に、レッズも自前でユース部門を持つこととなり、浦スポとの共同が解消されました。

それまで、U15とU18のコーチはレッズから派遣されていましたが、1996年からは自前でコーチを用意して運営していくことが必要になりました。

当時U15とU18にいた子ども達は、皆レッズに移りましたので、ゼロからの出発。レッズの看板をはずしたクラブには、なかなか子ども達が集まらなくなってきました。

あわせて、収入は会員の会費のみになったことで、年度収支は赤字になり、瞬く間に財産がなくなっていきました。



1999年、来年には運営が立ちいかなくなるかもしれない状態となり、当時の役員は解散も検討されていました。

ここでクラブが潰れなかったのは・・・生涯コースの会員の存在でした。

毎週土日、土のグラウンドで練習をするだけ・・・リーグ戦に参加するでもなく、試合はたま～にある親善試合のみ。それでも50人の大人達。職業も年齢もバラバラ、出身学校も、出身地もバラバラ・・・浦スポの生涯コースで出会った仲間達が、せっかくできた毎週一緒に球を蹴る場を失くしたくない・・・自分達で協力しあって続けていこうと。

そんな仲間達の気持と、この生涯会員が支っている会費がクラブを支えました。月1万円（現在は5千円です）の会費は、決して安いものではありませんでしたが、毎週土日のサッカーをすれば、1回千円。そんな気持ちでみな続けていたのです。その会費のおかげで、U15のコーチの謝金も支払うことができ、U15を続けることもできました。

毎週、一緒にグラウンドで少人数でも一生懸命練習をしているU15の子達も続けさせたい。そんな想いも大きかったものと思います。



(2010年、生涯コースとU15、その家族も一緒に)

■なぜ、50名もの会員がいたか・・・

ここで、しばしば聞かれるのが「そんな高い会費を払って、対外試合もしない活動に50名もの会員が良くのこったね」ということです。

ここに多くの競技スポーツ志向のチーム活動ではわからない浦スポの大きな謎があるのです。

答えは簡単・・・「試合がないから、レギュラーも補欠もない。だから、みんなが同じように活動できる」ということなんです。もちろん、50人いれば技術も体力もバラバラで、個人差は大きいものがあります。でも、社会ではそんなことは当たり前。いろいろな人がいても、それを否定してしまっただけは始まりません。それぞれの個性を認め合いながら、自分ができることをせいっぱい楽しんで汗をかいて球を蹴る・・・。

子どもの頃を思い出せば、路地でやっていた遊びには、小さい弟が混じっていたり、女の子が混じっていたりで体力差も技術差もあるのは当たり前。そんな中でも小さい子をかばいながら上の子が頑張る・・・そんなことが当たり前に行われていましたよね。いつの間にか、スポーツの多くが競技性や勝敗の追求に終始してしまい、スポーツをすることの楽しさが失われていることが多くみられるようになりました。

浦スポは、誰でも参加できる、お互いを認め合って、自分がやれることを精一杯やって気持ちよく汗をかく。スポーツを楽しむ・・・サッカー生涯コースの中にいつのまにか根付いていたそういった考えが、クラブ運営の最大の危機を乗り越えられた理由です。

～青空でキンボール！～

5月18日（日）、緑区のさぎ山記念公園で開催された、みぬま春フェスinさぎ山において、クラブのPRの一環で、青空キンボール体験教室を行いました。

公園にきていた親子に、大人気。皆さん、初めてみる大きなボールに興味深々。

3チームが同時に試合をするという不思議なルールにも興味深々。

大人も童心に帰って楽しい時間を過ごしました。



クラブからの情報発信ツール

■クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載

■facebook：

<http://www.facebook.com/urawasc>

クラブの昔の写真を公表しています。

■メルマガも配信始めました：

無料です。携帯からも簡単登録。

